

事務事業評価表

1. 基本事項

作成日 令和05年06月16日(金)

事務事業		危険物規制事務		担当課	予防課	担当係	危険物保安係	管理番号	51211
総合計画	大項目	4	安心とやすらぎを感じられるまち	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務				
	中項目	1	備えができ安全・安心なまちづくり	根拠法令 個別計画等	消防法・火薬類取締法・高圧ガス保安法・液化石油ガス法				
	小項目	2	消防・救急体制の充実						
	主要プロジェクト								
事業概要		危険物施設等を管理する関係者に、消防関係法令等を遵守させることにより危険物事故の発生を未然に防止し、市民及び危険物施設の安全・安心を確保するものである。							
目的 ※何のために		火災及び危険物事故を未然に防止するため。							
対象 ※誰・何を対象に		危険物貯蔵取扱施設、火薬類の消費、高圧ガス施設、液化石油ガス施設、少量危険物貯蔵取扱施設、指定可燃物貯蔵取扱施設							
手段 ※どのように		危険物施設等の設置または変更許可申請や各種届出の処理・審査及び検査を実施する。							
成果 ※何を求めるか		火災及び危険物事故を未然に防止し、市民及び危険物施設の安全、安心を確保する。							
執行体制		<input checked="" type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 市民ボランティア <input type="checkbox"/> NP0等 <input type="checkbox"/> その他()							
事務事業を構成する 予算事業		区分	款	項	目	細事業名		前年度決算額(円)	
本事業の 主な業務		・危険物製造所等申請処理・審査及び検査				・圧縮アセチレンガス等の届出処理・審査及び検査			
		・危険物製造所等届出処理及び審査				・火薬類取締法に関する申請処理・審査及び検査			
		・危険物施設台帳管理				・高圧ガス保安法に基づく立入検査			
		・危険物事故調査及び報告				・火災予防条例の規制に関すること			
		・危険物施設の査察業務				・			
		・液化石油ガス法に関する届出等の処理・審査及び検査				・			

2. 事業費（投入コスト）

単位：円

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年度別計画						
事業費	予算（現額）	0	0	0	0	
	決算額	0	0	0	0	
	財源内訳					
	国支出金	0	0	0	0	
	県支出金	0	0	0	0	
	地方債	0	0	0	0	
人件費	他特定財源	0	0	0	0	
	一般財源	0	0	0	0	
総事業費試算	9,314,298	16,526,070	19,095,943	19,095,943		

※ 人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

3. 評価指標

区分	指標名		目標値	単位	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度
			実績値							
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
実績値の算出式										
活動指標 1	危険物施設管理数	目標値	件							
		実績値		638.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			消防本部管内における危険物施設管理数のため目標値には値しない。/危険物台帳システム入力施設数						
	実績値の算出式									
活動指標 2	危険物施設等許可申請・軽易 変更届出等件数	目標値	件							
		実績値		423.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			消防本部管内における許可申請、届出件数のため目標値には値しない。 / 当該年度実績						
	実績値の算出式									
活動指標 3	危険物施設立入検査数	目標値	件	180.00	180.00	180.00	180.00	180.00	180.00	
		実績値		180.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			消防本部管内の危険物施設立入検査数 / 当年度 立入検査件数						
	実績値の算出式									
成果指標 1	立入検査結果改善報告書提出 率	目標値	%	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	
		実績値		73.68						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			立入検査結果に伴う改善報告書の報告率 / 報告済施設/改善報告対象施設						
	実績値の算出式									
成果指標 2	危険物施設火災及び事故件数 当年度件数	目標値	件	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
		実績値		2.00						
	目標値の算定根拠/実績値の出所			危険物施設火災及び事故件数ゼロを目標とする。						
	実績値の算出式									
		目標値								
		実績値								
	目標値の算定根拠/実績値の出所									
	実績値の算出式									

4. 観点別評価

観点別評価は、指標達成の有無の他、その達成率も勘案して総合的に評価します。
目標値の設定がないものについても、進捗状況等を踏まえA～Cの三段階にて評価します。
事業達成度評価は、意図した活動により事業目的に適う成果がでているかを評価します。
(評価基準) (A:達成している B:おおむね達成している C:達成していない)

(1) 事業達成度評価

区分	評価の観点	評価	評価理由・指標数値の推移
活動	・活動実績は、見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか。	A	危険物施設の施設数及び申請・届出数は、令和4年度より若干ではあるが減少しているものの、厳正な審査を実施している。また、危険物施設の立入検査においては、前年度から10件増の目標件数としたが、目標であった180件を達成したことにより、意図した活動が行えたと言える。
成果	・意図した成果が上がっているか。 ・指標未達成の場合は、その原因を分析できているか。	B	立入検査を実施した結果、19事業所に指摘事項があり、そのうち14事業所から改善結果報告書が提出され、指摘事項が改善されたものの、5事業所が未提出であった。また、危険物の事故件数は前年が4件であったが、令和4年度は比較的軽微な事故が2件発生しており、前年度と比較すると効果が表れたと言える。
			評価者 予防課長補佐兼危険物保安係長 荻野 明

(2) 事業効率性評価

事業効率性評価は、執行体制や手段など効率的に事務事業を執行しているかを評価します。
(評価基準) (A:効率的である B:高める余地あり C:効率的でない)

区分	評価の観点	評価	評価理由
効率性	・ICTの活用や業務改善が充分か。 ※検証必須 ・コスト面など効率的に執行できているか。 ・民間委託や他事業との統合・連携が可能か。	B	令和4年度は市民サービスの観点から電子申請による届出を1事案構築した。今後は、より多くの電子申請やオンライン相談が可能な体制を計画的に構築していく。
			評価者 予防課長補佐兼危険物保安係長 荻野 明

5. 前年度改善改革プラン達成状況

令和3年度の評価を受けて 設定した改善・改革案	立入検査を令和3年度の実績より10件増の180件の目標として実施していく。また、事業所に対しSNSを活用した広報活動やチラシの配布及び知識の向上を目的とした講習会を開催し、事故防止を図りながら危険物施設の事故ゼロを目指していく。
達成状況及び その効果	目標であった180件の立入検査を実施できた。また、ラジオ放送やチラシにより危険物の取扱いに関する注意喚起等の広報活動を行った。更に危険物施設を保有する事業所を対象に講演会を開催し、事故防止を図った結果、事故発生件数の減少に繋がった。

6. 所属長評価（今後の方向性）

事務事業	危険物規制事務	担当課	予防課	担当係	危険物保安係	管理番号	51211
<div><div><div><input type="checkbox"/> ①拡充, 重点化(コスト投入)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> ②現状のまま継続</div><div><input type="checkbox"/> ③見直して継続</div><div><input type="checkbox"/> ④目的達成による終了</div><div><input type="checkbox"/> ⑤廃止を検討</div></div><div><div><input type="checkbox"/> 委託化等の検討</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 効率化のための改善</div><div><input type="checkbox"/> 事業規模の縮小</div><div><input type="checkbox"/> 他の事務事業と統合</div></div></div>		評価の内容説明					
上記を実施するための具体的な取組内容は？		評価者 予防課長 小林 晃昌					

7. 改善改革プラン・今後の課題

令和5年度に実施する 改善・改革案 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	危険物施設の立入検査に関しては令和4年度の実績値として180件であった。令和5年度は180件以上を目標に実施するとともに、指摘事項のある事業所には改善指導を行いながら、追跡調査を実施し改善を促していく。また、事故防止のソフト面として、チラシの作成及びリーフレットの配布と安全講演会の開催を継続的にを行い、危険物施設の事故ゼロを目指していく。
令和6年度以降に取り組む 改善・改革案・今後の課題 (事業目的・各指標の達成に必要な改善、業務の効率化を図るための改善)	近年、管内においては、世間を騒がすような大規模な事故は発生していないが、軽微なものは毎年数件発生している。大きな事故が発生した場合、甚大な被害が想定されることから、被害を最小限に食い止めるための初動対応及び事業所と消防の効率的な活動が重要である。今後は、事業所と消防が連携した初動対応訓練を行い、相互に事故防止対策を図っていく必要がある。

8. 評価指標グラフ

